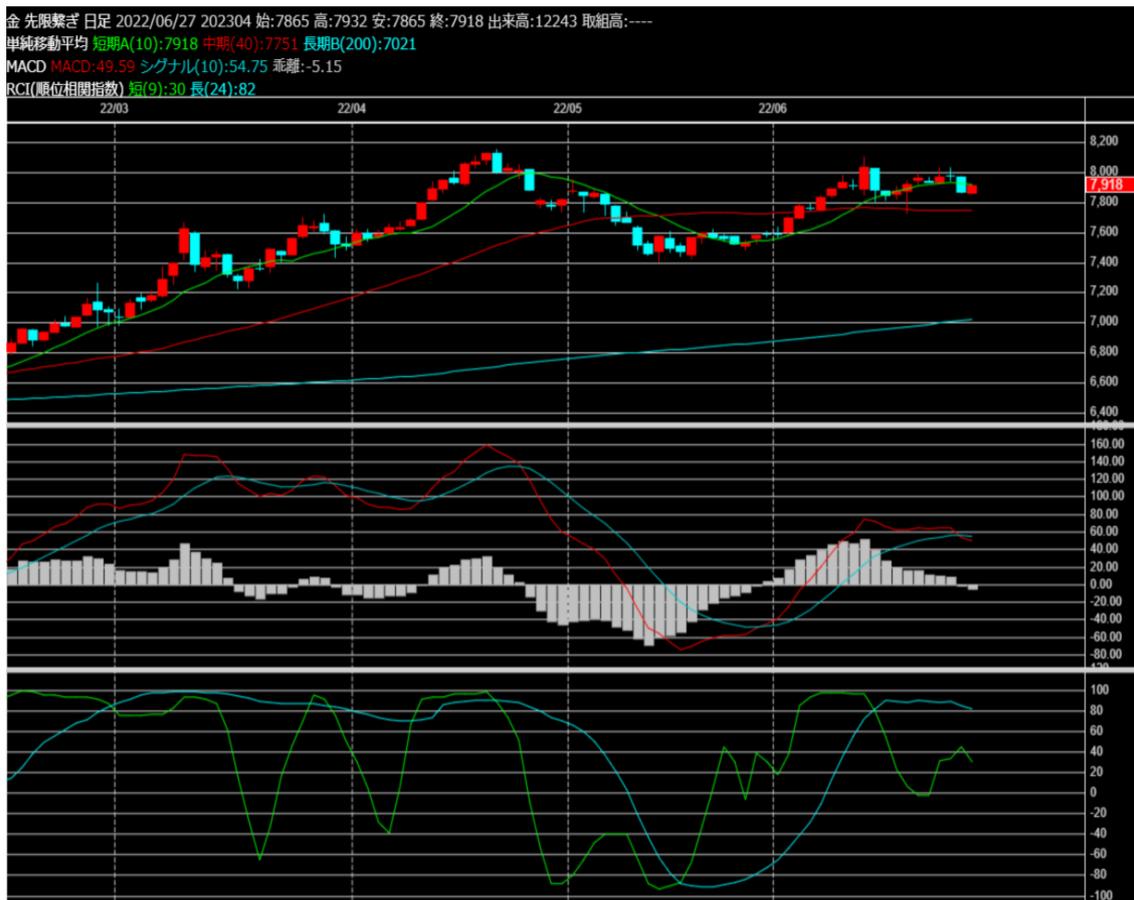


<金標準先物、テクニカル要因で 7800 円への調整安・・・>



(出所：オアシス)

ドイツ製造業 PMI、ユーロ圏製造業 PMI、米国製造業 PMI がインフレ高を受け、尽く低下し、パウエル FRB 議長は下院議会の議会証言で「インフレには無条件である」と述べるなど、過度な利上げ観測の高まりで、市場ではリセッションの可能性が高まりを見せるなど、市場では逃避の動きが強まっている。特に金標準先物は、米国為替政策報告書で日銀の為替介入が難しいとの見方が拡がり、黒田日銀総裁の記者会見での緩和策の継続が示されると 24 年ぶりの 136.71 円の円安：ドル高まで進み、一時 8037 円まで高値を試している。

しかしドルは 20 年来、金利は 11 年来の高い水準を示すなど「金利を生まない金」「ドル高に弱い性質の金」であり、このまま高値追いを続ける根拠が乏しくなっている。

特に今週は、ポルトガルで ECB の中央銀行フォーラム 2022 が開催され 29 日にはパウエル米 FRB 議長、ベイリー英中銀総裁、ラガルド ECB 総裁、カルステン BIS 総支配人が参加するディスカッションに注目が集まると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** が下げながら、**シグナル**を下回るクロスが発生し、RCI では**短期**が下げだし、**長期**も切り下げている。また **10 日移動平均線**が切り下げながら日足が下回るなど **40 日移動平均線**に向けた調整安に注意したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,370,000 円(2022 年 6 月 27 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 6 月 27 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>